



きせき

秋草学園高等学校 卓球部通信
平成30年2月27日
第326号



運の強い後藤奏選手

———努力なしでは運も味方しない———

後藤さんは運の強い生徒です。1年の国体予選でシード選手が棄権、ベスト16に入ってから快進撃。インハイダブルス連続出場もしましたし、高校生新聞社賞受賞（学校で1名）、37人中5人合格という難関学部の合格と驚くばかりです。これも不断の努力が有ってからこそだと思います。

先日後藤さんの3年間の経験談を部員に聞かせました。その見えない努力に感動していました。それも後輩に慕われる理由でもあるのでしょう。



後藤さんは中学時代、他校などの勧誘が有ったようです。「卓球は続けない」と言っていたので、コーチ間で勧誘を断ったそうです。そして、秋草から電話が有り秋草で卓球をやることに決めました。後藤さんの嫌いなところは私が「明日朝練休んでいい？」というところと「えっ〜」というところ。前の部長は「え〜、はい。わかりました」というのに「えっ〜」というのです。また、大会終了後現地解散なのに「秋草に戻って練習できますか？」と聞いてくること。「今から戻っても1時間位しかできないよ」といっても「やりましょうよ」というのです。

幸せだった日々 後藤 奏

振り返ってみると秋草卓球部員として過ごした3年間は最高に幸せな日々でした。大会で良い成績を残すとみんなでパーティーをしたり、遠征の時は海ほたるなどによって観光したり、普段卓球の練習で旅行ができなかったけど、こういうのでみんなで旅行気分を味わえたりして、とても楽しかったです。時には周りが遊んでいる中、練習ばかりでつらくて辞めたいと思ったことも有りました。それでも諦めずに引退まで続けられたのは、家族の応援や一緒に頑張ってきた仲間がいたからです。毎朝必ず弁当を作り駅までや時には秋草まで車で送り迎えをしてくれた母と大事な大会の度に応援メールをくれた父に感謝し、どれだけ恩返しができるかわからないけど、必ず恩返しをしていきたいと思っています。家族より長い時間を過ごしてきた部活の仲間は、卓球も個性も強く、あこがれの存在でした。私は大好きなみんなと一緒に戦えたことを誇りに思います。

一番感謝しているのは古川先生です。卓球や何十時間にも及ぶ論文指導や面接指導に覚えの悪い私を見捨てないで面倒をみて下さいました。また、人への接し方などを考えさせて頂きました。本当に感謝しかありません。

私は秋草卓球部員として過ごしたつらくて幸せだった日々を一生忘れません。今まで関わって来た人全員にお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。